

- Low Froude number flow past three dimensional obstacles. Part I: Baroclinically generated lee vortices. *J. Atmos. Sci.*, **46**, 1154-1164.
- 71) Smith, R.B., 1989: Comment on "Low Froude number flow past three-dimensional obstacles. Part I: Baroclinically generated lee vortices" *J. Atmos. Sci.*, **46**, 3611-3617.
- 72) Smolarkewicz, P.K. and R. Rotunno, 1989: Reply. *J. Atmos. Sci.*, **46**, 3614-3617.
- 73) Harada, A., 1981: An analytical study of nocturnal low-level jet over the Kanto Plains. *Pap. Meteor. Geophys.*, **32**, 233-245.
- 74) Kimura, F. and S. Arakawa, 1983: A numerical experiment on the nocturnal low level jet over the Kanto Plain. *J. Meteor. Soc. Japan*, **61**, 848-861.
- 75) 原田 朗, 1984: 関東地方の下層風極大について. *天気*, **31**, 679-686.
- 76) Harada, A., 1981: An analysis of the nocturnal cyclonic vortex in the Kanto Plain. *J. Meteor. Soc. Japan*, **59**, 602-610.
- 77) Kimura, F. 1986: Formation mechanism of the nocturnal mesoscale vortex in Kanto Plain. *J. Meteor. Soc. Japan*, **64**, 857-870.
- 78) McGregor, J. and F. Kimura 1989: Numerical simulation of mesoscale eddies over Melbourne. *Mon. Wea. Rev.*, **117**, 50-66.
- 79) Wilczak, J.M. and J.W. Glendening, 1988: Observation and mixed-layer modeling of a terrain-induced mesoscale gyre: The Denver cyclone. *Mon. Wea. Rev.*, **116**, 2697-2711.
- 80) Kessler, R.C. and S.G. Douglas, 1991: A numerical study of mesoscale eddy development over the Santa Barbara Channel. *J. Appl. Meteor.*, **30**, 633-651.



Gary Lockhart, グループW訳

「お天気となかよくなれる本
—世界気象博物誌—」

丸善榜, B 6 版, 125頁, 1,380円

本書の原題はTHE WEATHER COMPANION—An Album of Meteorological History, Science, Legend and Folklore—である。これから分かるように、気象に関する科学的・歴史的あるいは民俗的な話題を集めた本である。著者はまえがきにおいて、『今は気象衛星やスーパーコンピュータの時代だ。……予報の精度も良くなった。しかし、……天気予報を知るだけでいいのだろうか。自然界の日々の移り変わりに心を配ることは、生活にうるおいをもたらし、心をなごませてくれる。空は時々刻々変化して、同じ夕日は二度と見られない。先人たちの積み重ねてきた経験や知識に触れると、自然の不思議が見えてくる。……生活体験から得られた天気についてのさまざまなことを、民俗気象学としてまとめてみた。』と述べている。民俗気象学という言葉があるのかどうか評者は知らないが、内容的には「気象歳時記」あ

るいは「天気俚語集」にあたる。

目次を示すと、お天気学の歴史・お天気を探る器械・お天気のいろいろ・気象警報・動物と天気・植物と天気・あなたと私とお天気と、となっている。多くの話題が含まれているが、特に、天気予報に関する経験則をまとめたフィッツロイに関する逸話、風配図の語源、空にあらわれた奇跡の十字架の気象学的な解釈、人工降雨に関する話題、お天気に関する言葉の語源などの話題に、評者は興味を覚えた。

この本の訳者であるグループWは気象庁において予報に携わっている(いた)5人の方々によって構成されている。取り上げられている話題(俚語)によっては、気象学的にみて本当だろうかと思われる内容もあるので、訳者の経歴を生かし、それぞれの話題の内容についての気象学的な検討あるいは対応する日本での俚語などを、訳注というような形で載せると一層興味深いものとなったと思われる。

パーティなどで気のきいた天気の話をするための種を仕入れるためには格好の本である。会話がはずむこと請け合いである。

(気象研究所 藤谷徳之助)